

岩城光英の永田町だより vol.283

7月になりました。丁度、1年の半分以上が過ぎたところです。新入生・新入社員の皆様にとりましては、学校や職場にも慣れ、新しい生活にも落ち着きがでてきたころではないかと思えます。夏本番を前に、体調管理には呉々もご留意願います。

去る6月26日、150日間の長い通常国会が閉会となりました。昨年10月に、参議院議院運営委員長という、国会運営の要となる職に就きました。予想した通り、参議院では少数与党、いわゆる、ねじれ状態により、国会運営に滞りの出る場面がありました。

残念なことは、衆議院で時間をかけて審議してきた重要法案が、廃案に追い込まれたことです。電力システム改革を実施するための電気事業法改正案、不正受給対策強化の生活保護法改正案、定数削減の区割り改定法案や、海賊多発海域船舶警備特別措置法など、計12本の法案と条約が廃案に追い込まれました。国民の皆様からは、分かりにくい幕切れになってしまいました。

このような政治の停滞を招かないような議院運営ができるよう、参議院選挙で勝利し、ねじれを解消しなければならないと、強く実感しました。

さて、今号では、地方公共団体の小規模エネルギー対策についての施策をご紹介します。

「小規模地方公共団体対策技術率先導入補助事業」

この補助事業は、地方公共団体が自らの事業に伴う二酸

小規模地方公共団体対策技術率先導入補助事業

平成25年度予算(案)額 3.0億円(3.0億円)



化炭素の排出量を抑制し、かつ模範的な先行事例を示すために、再生可能エネルギー・省エネルギー設備を導入し、業務部門における温暖化対策の効果的な波及を促進することを目的としたものです。

CO₂削減効果や普及啓発効果に優れた再生可能エネルギー・省エネルギー設備を率先的に導入しようとする地方公共団体、高効率設備の導入により自らの施設に高いレベルでの省エネ化事業を行う民間事業者を対象に、設備導入等に必要な費用の1/2を限度に補助を行う、としています。

今年度の公募は平成25年7月25日までです。

「この勢いを参院選へ」

北野湘南

参院選の前哨戦とされた東京都議会議員選挙で自民党は立候補者全員が当選し、圧勝した。これに対して民主党は第一党から第四党に大きく後退した。発足当初に比較するとやや低下したが安倍内閣の支持率は、60%を上回る高水準。参院選でも大きく躍進して過半数確保は確実との見方もあるが、大敵は“油断と慢心”。勝利に驕らず地味で着実な活動に徹する必要があるだろう。

都議選での自民・公明の勝利は、どのマスコミも予想していたが、自民党候補者が全員当選すると予想したマスコミは無かった。逆に民主党は半分近くに減少すると多くのマスコミが見ていたが半減どころか3分の1に減り、公明、共産に追い抜かれて第四党に落ち込むほどの地滑り的大敗を喫すると予想したマスコミは無かった。民主党内にも第三局として躍進が予想されていた日本維新の会が、橋下共同代表の慰安婦を巡る大失言で勢いを失ったことから、負けるものの第二党の座は安泰との見方さえ広がっていた。結果は民主党やマスコミの予想をはるかに上回る大敗となったが、選挙の怖さはこれだ。

安倍内閣の支持率の高さを示すのが、次の参院選での投票先として自民党が40%台と圧倒的となっていること。他の党はいずれも二桁に届かず、現状の勢力を維持できれば自民党の圧勝となり、参院で与党の公明と合わせて過半数の122議席を占めるのは確実視されている。民主党は株価が乱高下し、アベノミクスは失敗したとの批判を強めているが、証券各社は「現在の株価の混乱は調整局面によ

るものでいずれ株価は上昇に転じる」との見方で一致している。それどころか証券界トップの野村證券は、年末の株価をこれまでの1万6千円から1万8千円へ上方修正した。外資のゴールドマン・サックスも「日本株は明らかに売られ過ぎ。優良株を中心に買いが入り1万7千円台にまで上昇する」と、大幅な値上がりを見込んでいる。また、最近発表された景気指標は景気の改善を示すものが殆どで民主党の批判は全くの的外れであることが、はっきりする。

おまけに鳩山由紀夫元首相は香港のテレビで「尖閣列島は中国から見れば盗んだと思われても仕方がない」「日清戦争で日本の領土にした」と発言し国民の心情を逆なでした。民主党幹部は「鳩山氏は、党を離れており民主党と関係ない」との発言を繰り返し沈静化に必死だが、民主党の代表で元総理。さらに党の外交担当最高顧問まで歴任した。民主党には致命的なダメージになりかねず「泣き面に蜂」とはこのことだろう。橋下代表の発言で勢いを失いつつある日本維新の会は、石原慎太郎共同代表との不仲説も飛び交い、近いうちに分裂必死との見方さえ浮上している。

共産党は躍進したが、支持者が高齢化しているにも関わらず若者の心を捉えられないことから自民党を脅かすほどの勢力になるとは考えられない。「生活第一」は、1議席も確保できず世論調査でも1%の支持も得ていない。政界で大きな力を持っていた小沢一郎氏の政治力は、殆どなくなったというのが永田町の一致した見方だ。このように見ると安倍政権は順風満帆とも言えそうだが、維新の会は橋下氏の一言から一挙に失速した。野党は、自民党の失点を鵜の目鷹の目で探している。「一寸先は闇」との政界の格言をしっかりと噛み締めておくことが肝要だろう。

